

a 学校教育目標	夢と高い志を抱き、自ら学び、心豊かに、たくましく生きる児童の育成	b 経営理念 ミッション・ビジョン	【ミッション】(自校の使命)〇志を抱き、その実現に向けて考え、行動できる未来の創り手の育成 【ビジョン】(自校の将来像) 〇児童の確かな学力、豊かな心、健やかな体をバランスよく育成する学校 〇自己研鑽に励み、子供に寄り添い、チームワークを大切にする教職員 〇保護者・地域に信頼される学校 【育成をめざす資質・能力】 〇課題発見・解決能力 〇コミュニケーション能力 〇主体性 〇自己理解
----------	----------------------------------	----------------------	--

評価計画				自己評価					改善方針		I 学校関係者評価		
c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	7月	2月	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	改善方針	評価		
					h 達成値	h 達成値					イ	ロ	ハ
確かな学力 学び方の獲得と確かな学力の向上を図る。	(1) 基礎基本の定着、及び主体的・対話的で深い学びの実現を図る。 〇学習分析(学力定着確認・学習環境把握)結果をもとに、具体的な対応策を明確にし、児童の学力向上を図る。	◎教職員の授業力向上(ファシリテーターとしての教師の役割) ・児童の「主体的な学び」を実現する授業づくり(日常生活との関わりや必要感のある教材、めあて・まとめ・評価の一体化、目標達成に向かう発問(本質的な問いの設定と問いの解決)、ICTの効果的な活用) ・「学び方の獲得」のための手立ての工夫	・毎月の「ファシリテーターアンケート」において、目標値(平均70%)を達成した教職員の割合	80	86	108%	A	・毎月の「ファシリテーターアンケート」において、目標値(平均70%)を達成した教職員の割合は86%で目標値を上回った。月ごとに見ていくと4月は43%だったのに対し、7月は86%と肯定的な回答が増えてきている。毎月自己評価をし、取り組み内容を共有することで、今後の授業へ生かし、ファシリテーターを意識した取組へと向かっている。	・引き続き毎月の「ファシリテーターアンケート」自己評価を集計し考察を行い、PDCAサイクルで取り組みを積み重ねていく。毎月、全体で重点的に取り組む項目を決め、意識して授業改善を図る。	5			
			・単元末テスト目標平均点(低学年90点、中学年85点、高学年80点)以上の児童の割合	70				B C	・全校の単元末テストの目標平均点に達成した児童の割合は、国語66%、算数49%で目標値を下回った。どちらの教科も6学年中4学年が目標値を下回っている。全体的に見て、国語科では漢字の読み書きなどの知識・技能、算数科では、文章問題を解くことなどの思考力・判断力・表現力に課題がある。児童の個人差が大きく、全体指導だけでは理解が難しい児童もいる。	・ドリルタイムでは、漢字小テスト、計算を引き続き行い、基礎基本の定着を図る。また、NRTのアシストシートを活用し、前学年の復習及び学力の定着を図る。また、授業では、本時の学習の応用問題の定着率が80%以上となるよう、授業改善をしていく。	5		
	◎各種学力調査の活用と学習環境改善による学力の向上 ・学級、学習集団づくり ・学力調査、学習環境の結果分析をもとにした取組の実践	・標準学力調査(12月実施) 全国平均を上回る児童の割合	70										
	(2) 探究的学びの実現を図る。	◎「総合的な学習の時間」「生活科」における探究的学びの実現	・児童が主体的・協働的に探究することができる単元開発及び単元構成の工夫、効果的なカリキュラム・マネジメントを実施した教職員の割合 ・「地域や社会をよりよくするために何をすべきか」を考えている児童の割合	100 66	100 93	100% 141%	A A	・児童が主体的・協働的に探究することができる単元開発及び単元構成の工夫、効果的なカリキュラム・マネジメントを実施した教職員の割合は、100%で目標を達成した。校内研修で進捗状況の確認や今後の取組について全体で共有したことが肯定的な評価につながったと考えられる。 ・「地域や社会をよりよくするために何をすべきかを考えている」児童の割合は93%で目標値を上回った。特に「地域に貢献したい」と思っているの項目で肯定的な回答をした児童が多かった。	・道徳科を要したカリキュラム・マネジメントの学習プログラムを、生活科や総合的な学習の時間を中心に作成し。探究的な学びの実現を目指す。 ・生活科や総合的な学習の時間を中心に地域について考えたり、関わったりする活動を仕組み、児童が地域や社会をよりよくするために何が出来るか考えられる場を多く設定する。	5			
豊かな心と元気な体 健やかな体と豊かな人間性を培う。	(1) 基本的な生活習慣の確立を図る。	◎挨拶・清掃・ベル着・靴揃え、机の整理・整頓の徹底 ◎生活習慣の改善を図る取組の実施	・学期に1回家庭での生活改善週間の取り組みを行う。 ・学期に1回アンケート調査を行い、肯定的評価をする児童の割合	100 95	100 94.8	100% 99.7%	A B	・あいさつや朝ごはん、家庭学習等についての生活の振り返りを一学期の学期末に行った。生活改善週間を行うことで、児童は自分たちの生活習慣を見直すことができた。 ・児童の肯定的評価は、多くが95%以上である。特に、掃除については、掃除時間が始まる前から掃除をしている児童が多く、時間いっぱい取り組んでいた。教職員も特に、靴そろえや5分前行動を意欲的に取り組んでいると評価している。	・引き続き、2学期・3学期も取り組みを継続し、児童が自分の生活を見直すことのできる機会をつくっていく。教職員からも声かけを行い、意識付けを行っていく。	5			
			◎「考え、議論する道徳」の実践及び道徳科を要したカリキュラム・マネジメントの充実による学びを行動につなげる道徳教育の「継続と深化」	・道徳児童アンケートの重点項目(4項目)において、肯定的に回答した児童の割合 ・道徳科学習プログラムを作成し、実践した教職員の割合	85 100	86	101.5%	A	・道徳児童アンケート重点項目(4項目)の肯定的評価は、平均86.3%だった。目標とする85%を達成できた。一昨年度から2年間取組を進めてきた成果が表れていると考える。 ・2学期または3学期に実施する。	・アンケート項目「道徳科の授業では、友達と話し合うなどして、自分の考えを深めたり、広げたりしている」について、授業で話し合い活動を積極的に取り入れたら、友達の考えを聞いたり、友達と意見の交流をしたりすることで、自分の考えが「深まった」「広がった」と実感できる取組を行う。	5		
	(2) 道徳教育の充実と、豊かな感性・主体性等の向上を図る。	◎学級活動、縦割り班活動、児童会・委員会活動などの特別活動等を通じた主体性等の育成	・特別活動等について、学期に1回アンケートを行い、肯定的記述評価をした児童の割合	90	100	111.0%	A	・1学期のキャリアログの記述を見ると、全員の児童が自分の頑張りを肯定的に評価していた。「係の仕事を進んで取り組んだ。」「スポーツフェスティバルでは、友だちと協力してがんばった。」「など、自分の頑張ったことを書くことができた。	・キャリアログの他にも、行事ごとに振り返りを行い、自分や友だちの頑張りを振り返る機会を設けているので、引き続き行い、頑張りを認める機会をつくっていく。	5			
	(3) 健康の保持・増進と体力の向上を図る。	◎体力づくりと食育の推進	・体を動かすことが楽しいと感じる児童の割合 ・食べ物や食事を作る人に感謝しながら食べる児童の割合	80 90	90.7 97.7	113.3 108.6	A A	・体を動かすことが楽しいと感じる児童の割合は90.7%であった。総じて高い傾向にある。体育の授業や体育朝会など、運動量を確保し、楽しく活動できるようにとくんでいる成果と言える。 ・給食を感謝して食べる児童の割合は97.7%であった。目標を上回って達成することができている。昨年度のとくみ成果に加え、各学級で「残さず食べる」「食材を大切に」「作る人に感謝する」指導を継続的に行っている結果ととらえる。	・今後も9.3%の否定的立場の児童が楽しいと感じられるよう、楽しいと感じられない児童の様子を注意深く観察したり、聞きとりを行ったりしながら、とくみを継続していく。 ・感謝して食べている児童は多いものの、残菜がかなり多い実態がある。苦しみなどに挑戦したり、完食を目指したりする指導を個々に行っていく。	5			
信頼される学校 保護者・地域の願いに応え信頼される学校づくりを推進する。	(1) 情報を公開し理解・信頼を高める。	◎保護者・学校関係者評価委員の客観的評価による改善 ◎地域貢献活動による、郷土愛の育成	・保護者アンケートによる肯定的評価の割合(年2回) ・学校関係者評価における肯定的評価4段階で3、2以上 ・年に2回のクリーン活動の実施、児童アンケートで「自分から積極的に活動に参加できた」「須波の地域に貢献したいと感じることができた」児童の割合	90 100	95 93	105% 98%	A B	・保護者アンケートによる「各通信やホームページなどで、児童の頑張りが学校の様子が分かる」肯定的評価は、95%であった。 ・6月14日に小中合同のクリーン活動を実施した。アンケートでは、「地域に貢献したい」と回答した児童が96%、「自分から積極的に参加できた」が90%で、前回よりもやや下がっている。	・引き続き、児童の頑張りが学習活動の様子がよく分かる通信の発行やHPの更新に取り組んでいく。 ・「自分から積極的に参加できた」児童の数値が下がっている要因を分析し、地域貢献活動としての意義を踏まえた上で、持続可能な活動内容にしていけるよう、課題を踏まえ、取組にしていける。	5			
			(2) 幼保・小・中連携の充実を図る。	◎幼稚園等・中学校との連携による系統的・組織的な教育の推進	(小中合同授業、授業交流、合同研修、保幼小合同活動等の充実) ・学期に1回以上実施	100	100	100%	A	・1学期には、小中連携活動として、中学2年生による5・6年生への出前授業(リモート)、小中合同クリーン活動、小学校算数授業研究への中学校の参加(3名)、中学校の校内研修への小学校の参加(4名)を実施した。また、夏休み中に、幼保小連携として、宗郷保育所への見学(2名)を実施した。	・2学期以降も小学校・中学校の教育研究会への自主的な参加、中学校体育教諭による5・6年生への陸上教室の実施、宗郷保育所への2回目の見学等を計画している。これらの連携を充実させることにより、系統的・組織的な教育推進を行っていく。	5	
	(3) 「働き方改革」の推進を図る。	◎業務改善を図りながら主体的かつ協働的な業務の確実な遂行	・主体的・協働的に業務改善案を考え、行動する教職員の割合 ・月45時間以内の業務遂行 ・年休5日間以上取得者の人数	80 90 100	92 80 54	115% 89% 54%	A B -	・ほとんどの職員が業務改善につながる提案をすることができた。ICT(meet、フォーム、すぐる等)を活用した行事開催、提案やアンケート集計、下校指導の輪番制、連絡事項のデータ化、水やりの自動化等による負担軽減を行うことができた。 ・月45時間以内の業務遂行は、4月・6月の繁忙期に45時間を超えた職員が5人ずつおり、達成率は80%であった。 ・年休取得は、54%達成しており、計画的に取得できている。	・業務の効率化、行事や学習活動の見直し・精選、業務分担の仕方の工夫等、今後も業務改善につながる案を職員みんなで提案し合い、児童と向き合う時間確保につなげる。 ・教職員の健康や安全に互いに互いに注意を払い、気になることがあれば早急に対応する。 ・月45時間以内を意識しながら業務にあたる。	5			

【j: 自己評価 評価】
A: 100% (目標達成) B: 80% (ほぼ達成) < 100 C: 60% (もう少し) < 80 D: (できていない) < 60

【I: 学校関係者評価 評価】
イ: 自己評価は適正である。 ロ: 自己評価は適正でない。 ハ: 分からない。